

それならば、ヒトが本来からだに持ち慣れ親しんでいる物質
ALA を体内に取り込んでヘム不足を補えば病気の予防や治療に繋がる。
そうした可能性のもと、SBI ファーマは、ALA を利用した商品開発を始めました。

すでに商品化は実現しています。
1 つは脳腫瘍の診断薬。

ALA が体内に入るとヘム系のタンパク質になりますが、
がん細胞の中でだけはヘムになる手前で代謝が止まります。
その中間代謝物は特定の光を当てると光るのです。



これが手術の際にガン部分を特定することに役立ちます。
ガンの手術は取り残しや、余分な切除が問題としてあり、
その解決に一役買うことができます。

また、ガンに罹患しているかどうかの診断薬もあります。
体内に摂取した ALA は時間が経つと尿として排泄されます。
体内にガンがなければ ALA がヘム化する前にとまる中間物質は出ません。
でも、体内にガンがあれば、尿にその中間物質が出ます。
つまり、尿検査をして、中間物質を測定することで、ガンの診断ができるのです。

医薬品についてはそれぞれ治験が必要であり、
SBI ファーマは大切だと思われることから研究を進め、
1 つ 1 つ商品化をしていくところまで到達しています。

そして、増え続ける世界の人々の健康のため、
安く、早く、広く提供できる ALA 製品を提供することを目指しています。

SBI ファーマ株式会社の web サイトはこちら！
www.sbipharma.co.jp/